

## ～中学校区の特徴を生かした小中一貫教育～

### 上小阪中学校区の特徴ある取組み

上小阪中学校区には、上小阪中学校・上小阪小学校・桜橋小学校の3校が含まれています。めざす子ども像「考える・伝える・つながる子」をめざし、小中の校種や、学年を越えた『つながり』を大切に、日々の教育活動を行っています。

桜橋小と上小阪中は難聴学級指定校のため、対象者が所属する小中の連携を図っており、児童生徒にも手話や指文字などが日常的に浸透しています。

また校区に2つの大学を含んでおり、学生との交流など、地域力の活用も含め、学びを深めています。

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や学校園の取組みなど、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を発信していきます。



### 9年間の更にその先を見通すことができる子どもたちに…

上小阪中学校区には、9つの「つきたい力」があり、その育成のために、子ども自身が意識し、考える指標となるべき行動目標をすべての教室に掲示しています。例えば、学力面では、どのように学習に向かうべきなのか（【聴き方・話し方・学び方】）、生活面では、何を意識して行動するべきなのか（【時間・あいさつ・身だしなみ】）等があり、見える化することで、日ごろから児童生徒は意識して活動しています。

子どもが自ら答えを出し、具体的に行動に移していくことを日々の教育活動で繰り返す中で、自律を学び、自身の夢や将来を自らの力で掴み、自己実現に近づいていきます。その積み重ねが、「つきたい力」の向上につながっていくと考えています。

### 取組みや子どもの姿など

3校支援学級交流会



ポッチャで交流

小6・中学校登校



2小交流 -道徳授業-

きょうだい遠足



異学年交流

そうじ交流



難聴学級交流会



子ども達は、同学年・異学年の友だち、先生や保護者、講演や交流を通して出会った地域の方々などとの「つながり」を通して、その時々により適切な関わり方を「考え」、より適切な「伝え方」を工夫しながら、自分たちの思いや学習したことを表現しています。

どの取組みにおいても、子どもが自ら疑問や課題を見つけ、解決に向けて自分の考えを深めています。その中で、子どもは新たな課題を見つけ、次へつなげていきます。

今後も9年間を通して、このような活動を進めていきたいと思っています。

おりづる交流会



STEAM教育～子ども自身が疑問や課題を持ち、解決をめざす～



福祉施設の方々との交流・体験



課題解決に向けて発表・実現化を目指して…

保護者や先生、児童に向けて考えを発表



# 花園中学校区の特徴ある取組み

花園中学校区では「ひとも自分も大切にする子」をめざすこども像とし、4つのつきたい力「認め合う・伝える力」「主体的に学ぶ力」「つながる・支えあう力」「自己肯定感・自己有用感」の育成を目標に、学校内や地域で子どもたちが輝けるように9年間の一貫した教育活動を実践しています。その一つとして児童会・生徒会活動の取組みを紹介します。

## 『主体性を育む』児童会・生徒会活動～子ども会議を通して～

花園中学校区の児童会・生徒会活動は、企画から準備、運営に至るまで、児童・生徒が自ら行い、校内だけでなく、地域社会のために何ができるのか、何か役立てることはないかを考えながら活動しています。このように児童・生徒が主体的に活動することを通して、上記の「つきたい力」を育成しています。

校区で児童会の役員と生徒会の役員が集まり、「子ども会議」が開かれます。進行は中学生が行い、各校の活動報告や、地域社会のために小中が共に行える活動について考え、具体的にどのようなものにするか等、意見を出し合いながら決めていきます。今年度は、「校区内の清掃活動」「地域の方々へのあいさつ活動」「小中合同あいさつ運動」「募金活動」などが、子ども会議で決まり、実践していきました。

### 子ども会議の様子



①「各校の活動報告など」

②「児童・生徒で取組みの話し合い」

③「取組みの決定」

## ユニセフへの募金活動

今回の子ども会議では、児童・生徒はSDGs17の目標のうち「2. 飢餓をゼロに」に注目し、自分たちでできることを考え、ユニセフ募金活動を企画しました。校内にポスターを掲示してお知らせするなど準備を経て、校区内の駅前やスーパーの前で募金活動を実施しました。

### 校内掲示ポスター



### 取組みの様子



### 取組み後の壁新聞



取組み後、児童会・生徒会は募金活動のお礼と飢餓問題に対するメッセージを載せた壁新聞を作成し、各校に掲示しました。



花園中学校区  
キャラクター  
「ハナゾウノ」

### 募金活動のふりかえりより

- ◆募金をしてもらえるとなんかとてもうれしい気持ちになりました。
- ◆いろんな人が入れてくれて、その時、心の中がとても温かくなって、地域のための活動はいいなと思いました。
- ◆募金活動をして、いろんな人がお金を入れてくれて嬉しかったです。東大阪市には優しい人がいっぱいいることがわかりました。
- ◆「頑張っているね」と言ってくださり、自分ももっと頑張ってみようかなと思うきっかけになりました。誰かのために何かをすることはとても大切で、かけがえのないものだなと思いました。

### 主体的な活動→自己肯定感・自己有用感の向上 →自信や次の活動へのさらなる意欲へ

児童会・生徒会は子ども会議を通じて、リーダーシップを発揮し、積極的に活動に取り組んでいます。自分の意見をただ伝えるだけでなく、相手の意見もしっかり聴き、受け入れることを学んでいます。意見交流を通じて、それぞれが主体的に取組みに関わりながら、みんなで協力して問題解決に向けて努力した結果、自己肯定感や自己有用感が向上し、それが自信や次の活動への意欲につながっていきます。花園中学校区では今後もこういった経験を大切にしながら、つきたい力を更に高めていくような取組みの充実に努めていきます。